

第5分科会【国語】

「現代の国語」の単元を構想する

～新学習指導要領を見据えた「高次の学力」を育む授業展開の可能性～

報告者▶ 渡邊 久暢（福井県立若狭高等学校教諭）

コーディネーター▶ 景山 晋之介（京都市教育委員会学校指導課副主任指導主事）

新学習指導要領では、共通必修科目が「現代の国語」及び「言語文化」に改編される。国語科の新しい科目構成の理念や各科目の目標、それぞれで育成する資質・能力等を見据えながら、今からどのような授業改善が可能なのか。「高次の学力」を育むことを狙いとした「現代の国語」の授業案を提案することで、その可能性を探る。また、単なる「新テスト」対策にとどまらずに、高大接続改革にどう臨むかについても意見交流したい。

概略

新学習指導要領の共通必修科目「現代の国語」を念頭に渡邊氏が実際に構想し、今年度2学期に勤務校で実施された、1年生「国語総合」の単元「伝統・文化とは？」をご紹介いただきながら、「高次の学力」を育む単元のデザインについて考えた。渡邊氏は、新学習指導要領国語の各科目の中でも、まず「現代の国語」に注目する。というのも、「教材の読み取りが指導の中心」で、「主体的な表現等が重視された授業」や「話し合いや論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習」が十分行われていない（中教審2016答申）という現行の国語の課題を克服するために新設された科目こそ、「現代の国語」だからだ。それゆえ、教材ジャンルの変革（「実用的な文章」等）ばかりに着目するよりも、この科目でどんな力をつけるかという原点を見据えること、そして、生徒を豊かな表現へと誘う教材を選定することを重視し、魅力的で意義深い「現代の国語」の授業を実現することが、新学習指導要領の国語の成否のカギとなると渡邊氏はみている。

単元「伝統・文化とは？」では、教科書採録の西江雅之の文章（『食べる 増補新版』青土社2013年より）を中心に開発した教材群で、「書く能力」の育成を目指した。目標の設定に際して、渡邊氏は「一口に〇〇力というが、それはどんな力なのか」を明確化することを重視する。例えば本単元においては、若狭高校国語科チームが大切にしてきた「相手の反応を予想し、論拠を示す」ことを、「書く能力」を見とる観点として掲げた。というのも、目の前の生徒を見ていて、意見文を書く際に「なぜそう考えるのか」についての言及が弱いと国語科チームが感じたからだ。このように、目標は目の前の生徒の状況から紡ぎ出されるべきであって、借り物の目標が横行することを渡邊氏は危惧している。なお、若狭高校では前述の観点を、教師間のみならず、ルーブリックや考査の出題形式予告といった形で繰り返し生徒とも共有するが、その際、「論拠を示す」とはどういうことかも教師が言語化して示している。

目標がはっきりしたら、教材の選定である。渡邊氏は、「書く能力」を高次に育むためには、深く考えるに値する題材・課題で書くことが必要であり、そのために生徒のものの見方・考え方を揺さぶる教材の発掘が重要だと説く。渡邊氏は、力のあるテキストであれば、問いは自ずとその中にあると考えている。だから、発問に凝りすぎる必要もない。「あなたは〇〇時代の新聞記者です。そこで…」式の無理矢理感のあるパフォーマンス課題でなくともよく、「どう思う？とか、なぜ？とか、シンプルな問いばかり」と渡邊氏はいう。このように、力のある教材とシンプルな問いで生徒が揺さぶられるように組織化された学習活動を、渡邊氏は「ぐーーーーっ！と考えて、わっ！としゃべるイメージ」と表現する。

多くの教師が頭を悩ませる評価については、「難しく考えずに、ノートを見たり、生徒の話を聞いたりしてみては？」と渡邊氏は提案する。よく知られているように、渡邊氏は毎朝、受け持ち生徒全員のノートに目を通し、その日の授業を構想する。そのとき、「どんな頭の働かせ方をしているのか、頭の中を見とろう」と意識しているという。生徒は今、何を理解し、何を理解していないのか、どこでつまづいているのかという「生徒の現状の把握」こそ、評価の重要な機能だからだ。それゆえ、初めに設定した目標をガチガチに固定せず、生徒の状況を見て常に見直してゆくべきだと渡邊氏は強調する。

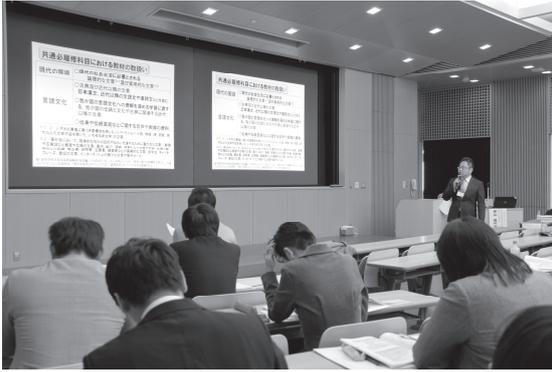
このように、渡邊氏は常に目の前の生徒の状況を教育実践の出発点としているため、若狭高校のやり方がよいやり方だと主張するつもりはない、と念を押す。それぞれの教師が勤務校の目の前の生徒に向き合って構想した固有の実践を、よりよくするためお互いに建設的に批評し合えることが、渡邊氏の願う実践者の関係といえるかもしれない。

全体討論の内容

単元の後半、捕鯨の是非、イスラム圏における性差別等に関して生徒の意見を問う資料も登場することから、道徳教育との関連を問う質問も出た。新学習指導要領においては、単元の構想に当たって、教科横断的視点、合教科的視点を意識する機会が増えるだろう。あって当たり前だった国語という教科の存在意義を国語科教師が真剣に考えないといけない時代が来るとい面もあるかもしれない。

到達点と今後の課題

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という評価の3観点の概念整理を理解することが出発点であることは確かだが、これらを別個にドリルしても「高次の学力」は育たないのではないか。特に「現代の国語」は、内容の領域も多く、複数のテキストを読み合わせる学習活動も増えることが予想されるため、科目の性質上、目標が細分化・分断化された授業実践になりがちかもしれない。「現代の国語」を「方法知」だけにしないことが重要なのではないだろうか。



スライド 1

2018年12月8日
第16回 高大連携教育フォーラム 第5分科会
「現代の国語」の単元を構想する
～「高次の学力」を育む授業展開の可能性～

新学習指導要領の国語に向かって

京都市教育委員会 学校指導課
副主任指導主事
景山晋之介

1

スライド 2

新学習指導要領の前提

2030年の社会を想定 (H28「答申」)

新学習指導要領で学んだ生徒が社会に出る頃
予測困難な時代

→自ら人生を切り拓く汎用的な「生きる力」

Society 5.0の到来

(H30「Society 5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」)

これまで誰も見たことない特殊な能力でなく、
むしろ普遍的な力

Society 5.0とは、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、人類社会の次の大きな変革のこと。人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が高産化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた「超スマート社会」(Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣閣議案)。

2

スライド 3

新学習指導要領の基本理念

内容(Contents) ベース
「各教科等別の内容を束ねれば教育課程になる」

↓

資質・能力(Competency) ベース
「教育課程総体として育成する
汎用的な資質・能力を軸に、
その達成手段として各教科等の内容を構築する」

森須正裕(上智大学教授)「育成すべき資質・能力とは何か」『教育研究』2015年11月号「総力特集 中教審『論点整理』が示す次期学習指導要領の方向性」pp.20-23等を参考。

3

スライド 4

育成を目指す資質・能力三つの柱

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか
知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか
思考力・判断力・表現力等

「平成30年度高等学校新教育課程説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料(1/3)」より。

4

スライド 5

教育課程編成の概念整理

学習指導要領改訂の方向性
新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

育てたい資質・能力 (第1款)
見られるべき
達成力等の育成

→
何ができるようにするか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の担い手となるために必要な資質・能力を育む
『社会に育かれた教育課程』の実現
各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか
教育内容の構造化 (第2款)
新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
小学校
新設
各教科
的に示す
学習内容の削減は行わない。

どのように学ぶか
授業改善 (第3款)
主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)
過程の改善
生きて働く知識・技能
など、新しい時代
に資する資質・能力を育成
知識の量を増やす
学習の質を高める
深い学び
の質的改善

イメージ図は「平成30年度高等学校新教育課程説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料(1/3)」より。図中の「款」は新「高等学校学習指導要領」(平成30年3月)の「総則」に対応。

5

スライド 6

OECD Education 2030との関連

The OECD Learning Framework 2030

新たな価値を創造する力 (Well-Being 2030)

責任ある行動をとる力

知識 Knowledge

スキル Skills

態度・価値 Attitudes and Values

資質・能力 Competencies

対立やジレンマを克服する力

見通しAnticipation → 行動Action → 振り返りReflection

新学習指導要領はOECDと同期して(鈴木寛・文部科学大臣補佐官)改訂。
(http://souken.ehimgakunet.com/career_g/2018/08/2030-301a.html)

6

スライド 7

新学習指導要領における教科・科目等の目標

【共通の定型表現】
 ～の見方・考え方を働かせ、～を通して、～の資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能
 (2) 思考力, 判断力, 表現力等
 (3) 学びに向かう力, 人間性等

※各教科等の内容も「知識及び技能」「思考力, 判断力, 表現力等」の2観点に沿って記述されている。
 ※内容について「学びに向かう力, 人間性等」の観点を示さないのは、個別の内容でなく教科(科目)等全体で育てるものであるため。

各教科等の「見方・考え方」の具体的な記述は、新「高等学校学習指導要領解説」(平成30年7月)の各欄にそれぞれ記載されているが、現時点で一覧できる資料としては、中教審「答申」(平成28年12月)別紙1がある。

7

スライド 8

「見方・考え方」と学びの過程と資質・能力の関係

各教科等で育成すべき資質・能力

働かせる

主体的・対話的で深い学び

各教科等の習得・活用・探究

各教科等の見方・考え方

鍛えられる

新「高等学校学習指導要領」(平成30年3月)p.17, 新「高等学校学習指導要領解説 総則編」(平成30年7月) pp.118-120等をもとに作成。

8

スライド 9

各教科等の授業改善の鍵「見方・考え方」

「見方・考え方」
 = 各教科等の特質に応じた
 物事を捉える視点や考え方

「主体的・対話的で深い学び」のうち、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるもの

※思考のための「メガネ」のようなイメージ

新「高等学校学習指導要領」(平成30年3月)p.17, 新「高等学校学習指導要領解説 総則編」(平成30年7月) pp.118-120, 高等学校新教育課程説明会 特別活動部会(平成30年7月)における長田敬園室長の解説より。

9

スライド 10

現行の高等学校国語の課題

- 教材への依存度が高い
- 主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている
- 古典に対する学習意欲が低い
 日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中で活かす観点が弱い

中教審「答申」(平成28年12月)及び高等学校新教育課程説明会 国語部会(平成30年7月)における大滝一登 10 学官の解説より。

10

スライド 11

学習内容の改善・充実

- ① 語彙指導
- ② 情報の扱い方に関する指導
- ③ 学習過程・「考えの形成」・探究的な学びの重視
- ④ 我が国の言語文化に関する指導
- ⑤ 「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する指導

新「高等学校学習指導要領解説 国語編」(平成30年7月) pp.11-13より。

11

スライド 12

新学習指導要領国語の科目構成

教材の種類で科目を分ける → 育成する資質・能力で科目を分ける

現行学習指導要領	新学習指導要領
【共通必修科目】 国語総合(4)	【共通必修科目】 現代の国語(2) 言語文化(2)
【選択科目】 国語表現(3), 現代文A(2), 現代文B(4) 古典A(2), 古典B(4)	【選択科目】 論理国語(4), 文学国語(4) 国語表現(4), 古典研究(4)

国語総合[現代文分野] → 現代の国語
 国語総合[古典分野] → 言語文化
 という新旧対応が成立しているわけではない。

12

スライド 13

共通必修科目の内容構成と各領域の授業時数

	[知識及び技能]			[思考力、判断力、表現力等]		
	言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語	○	○	○	20～30 単位時間程度	30～40 単位時間程度	10～20 単位時間程度
言語文化	○	—	○	—	5～10 単位時間程度	【古典】 40～45 単位時間程度 【近代以降】 20 単位時間程度

新「高等学校学習指導要領解説 国語編」(平成30年7月) pp.65-66より。 13

スライド 14

共通必修科目における教材の取扱い

現代の国語	○現代の社会生活に必要とされる論理的な文章※1及び実用的な文章※2
言語文化	○古典及び近代以降の文章 日本漢文、近代以降の文語文や漢詩文などを含む ○我が国の言語文化への理解を深める学習に資する、我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章 ○伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料

※1、2…いずれも事実に基づき虚構性を排したノンフィクション(小説、物語、詩、短歌、俳句などの文学作品を除いた、いわゆる非文学)の文章。
※2…実社会において、具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章。(新聞や広報誌など報道や広報の文章、案内、紹介、連絡、依頼などの文章や手紙、会議や裁判などの記録、報告書、説明書、企画書、提案書などの実務的な文章、法令文、キャッチフレーズ、宣伝の文章、インターネット上の様々な文章や電子メール)

新「高等学校学習指導要領解説 国語編」(平成30年7月) p.67, 98等より。なお、「事実に基づき虚構性を排したノンフィクション」の説明は、「現代の国語」のページで5回、「論理国語」のページで3回も強調される。 14

スライド 15

新学習指導要領の指導における課題・留意点

①複数テキストを読む学習活動の指導(教材群の選定)
「現代の国語」内容[思考力、判断力、表現力等]C (1)イ、(2)イなど
「言語文化」内容[思考力、判断力、表現力等]B (2)ウなど

②「主体的・対話的で深い学び」を活性化する
教師のファシリテータ的役割(発問の考案)
「現代の国語」内容[思考力、判断力、表現力等]A (1)ア、オなど

③「現代の国語」における実用的な文章の指導

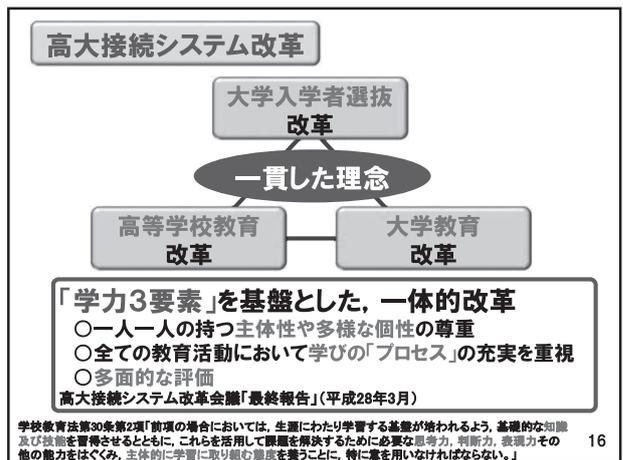
④必修科目における近代以降の文学作品の居場所

⑤「文学国語」における創作・批評の指導
「文学国語」内容[思考力、判断力、表現力等]A (2)ア、ウ、エなど

⑥4選択科目の配置
現行指導要領で一般的な「現代文B」+「古典B」の内容をカバーしようとする、実質的に増単位?

このスライドは高等学校新学習指導要領 国語部会(平成30年7月)等を踏まえたコーディネーターの課題 15
であり、部会における行政説明ではありません。

スライド 16



スライド 17

高大接続システム改革の行程

	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
学習指導要領	告示	解説	教科書	小実施	中実施	高実施(年次進行)		
学びの基礎診断		申請・審査	試行実施			正式実施		
共通テスト	試行調査	試行調査	実施(国・数で記述導入)				新指導要領版	
大学入試英語			共通テスト+民間試験併用				民間試験のみ	
調査書書式変更			総合所見欄の変更 備考欄の拡張				新指導要領版	
JAPAN eポートフォリオ		一部大学で活用開始						

英語民間試験はケンブリッジ英検、TOEFL、TOEIC、GTEC、TEAP、TEAP CBT、英検、IELTSの6種が認定(H30.3)、英語併用期間について、国大協は、出願には両方必須(H29.10)、民間試験の配点は2割程度を目安とする方針(H30.4)を発表するも、京大は成績を合否判定に用いない方針を公表。 17

スライド 18

<参考資料>

新「高等学校学習指導要領」平成30年3月30日
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

新「高等学校学習指導要領解説」平成30年7月
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm
※ただし、誤植等を修正した完成版にはまだ差し替わっていない模様。

平成30年度 高等学校新学習指導要領説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1408677.htm

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)平成28年12月21日
http://www.mext.go.jp/h_menu/shingi/chukyō/chukyō0/toushin/1380731.htm

Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣閣議
http://www.mext.go.jp/a_menu/society/index.htm

OECD Education 2030
<http://www.oecd.org/education/2030/>

高大接続システム改革会議「最終報告」
http://www.mext.go.jp/h_menu/shingi/chousa/shougai/033/toushin/1369233.htm

18

スライド 1

本日議論したい問い

- 新教科「現代の国語」において、
高次の国語学力を育むには、
どのような単元をデザインすべきか。
①どんな力を、②どんな教材・活動で培い、
③どう評価するのか？
特に、主体的に学習に取り組む態度をどう育むか

スライド 2

なぜ「現代の国語」を検討の対象にするのか

中教審(2016)の指摘
「教材の読み取りが指導の中心になることが多く、
国語による主体的な表現等が重視された授業が十分に行われていない」
「話し方や論述などの『話すこと・聞くこと』、『書くこと』の領域の学習が十分に行われていない」

↓

「現代の国語」が新設
「話すこと・聞くこと」は20～30単位時間程度、
「書くこと」は30～40単位時間程度の確保が求められた。
新指導要領をふまえた上で、目の前の生徒に合わせた学習目標を指定する。
どのような教材を用いて、どのような学習活動を組織し、どう評価するかは、要検討。

スライド 3

「高等学校国語科における『目標と指導と評価の一体化』の可能性」

「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」や
「学びに向かう力・人間性」を培うことの重要性が認識されつつある。

↓

- ・国語科で培う思考力って何？（学力構造への意識化）
- ・どんな教材で、どんな学習活動を？（教材・活動の組織化）
- ・思考力がついたかは、どうしたらわかるの？（目標・評価への意識化）

スライド 4

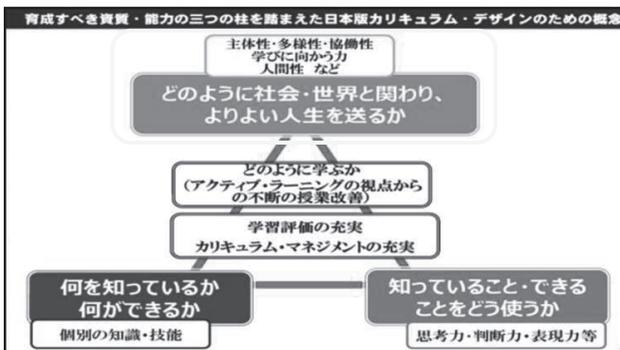
昨年、第15回高大連携教育フォーラムを開催するにあたり、次の趣旨を述べた。

“現在、「高大接続改革」の具体化に向けた検討が進められている。しかし、その注目は、依然として、大学入学者選抜改革、特に「大学入学共通テスト」に集まっている。「高大接続改革」の本来の目的は、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を一体的に改革することにより、高校生・大学生に必要となる資質・能力を身に付けさせることであって、大学入学者選抜改革は「教育改革」を実現するための改革の一つであるということを忘れてはならない。高等学校・大学が大学入学者選抜も含めた教育改革を進めていくにあたっては、双方が「若者にどういった力を身に付けさせるべきなのか」ということを基盤として持つ必要がある。”

いまなお、この認識に変わりはない。したがって、メインテーマはそのままとした。

今回は、2018年3月に次期高等学校学習指導要領が告示されたことや、2019年度から「高校生のための学びの基礎診断」が導入されることを踏まえて、高大接続のあり方を探っていきたくと考えている。

スライド 5



スライド 6

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 (新学習指導要領「現代の国語」知識・技能の(1)イに準拠)	○自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 (新学習指導要領「現代の国語」A 話すこと・聞くことの(1)イに準拠) ○読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している(新学習指導要領「現代の国語」 B 書くことの(1)イに準拠)	○伝統・文化といった内容にこだわらず、自身の考えを表出する活動に積極的に関わり続け、他者との見方・感じ方・考え方を対話し、問い直す機会を作り出し続けている。

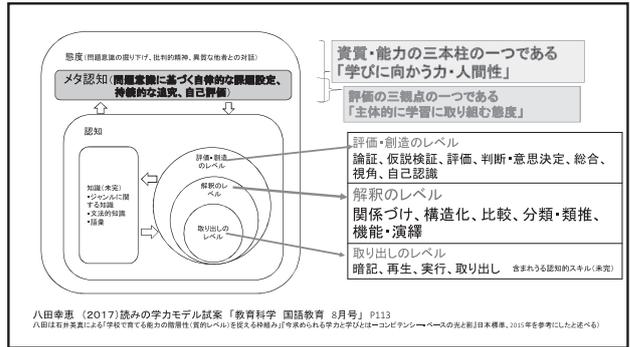
スライド 7

学校で育成する学習・能力の要素の全体像を捉える枠組み
 (出典:石井美実「今求められる学力と学びとは—コンピテンシーベースのカリキュラムの光と影」日本標準, 2015年.)

学習・能力の要素 (目標の柱)			
能力・学習活動の階層レベル (カリキュラムの要素)	知識	スキル	情意 (関心・意欲・態度・人柄特性)
基礎的・基本的な能力の育成	知識の習得と定着 (知っている・で きる)	認知的スキル 記憶と再生、機械的実行と自動化	社会的スキル 学び合い、知識の共同構築
発展的・応用的な能力の育成	知識の意味理解と 活用 (わかる)	概念的知識、方略 (働か せるプロセス)	社会的スキル 学び合い、知識の共同構築
創造的・革新的な能力の育成	知識の有用な活用 と創造 (使える)	汎用的問題解決、意思決定、仮想的推論 能力、方略 (働く) を備え、 知識・技能の活用	社会的スキル プロジェクトベースの学習 (コミュニケーション) と協働
社会・文化・環境に 関与する能力の育成	社会的規範の自律的 構築と実践 (行える)	社会的規範の自律的 構築と実践 (行える)	社会的スキル 社会的責任や倫理観に基いた 社会的規範、道徳的行動、立派 な態度

※大半部分は、それぞれの能力・学習活動のレベルにおいて、カリキュラムに明示されるべき目標の要素。
 ※認知や社会的スキル等の知識・技能については、若くしてに習得すべきである。内容は授業で習得する機会も多岐にわたる。情
 意領域については、評定の対象は、形成的評価やカリキュラム計画の対象とすべきである。

スライド 8



スライド 9

我々は、たとえば国語科でどんな力を？

- 思考力・判断力・表現力を
 培うことが 大事、ってよく言うけど、
 たとえば思考力って、**どんな力？**
 深く考える力の深いつて**どういうこと？**

スライド 10

問いの背景 その1 目標設定に関する課題

- ★「まず教材ありき」の単元構想←(大滝一登 2018)
- ★一方で、教科固有の能力構造の検討・精緻化は
 進んでいる
 アメリカでは高次の「読みの理解」に
 「評価 (evaluate)」「批評 (criticize)」「鑑賞 (appreciate)」
 といったプロセスが位置づけられる (八田幸恵 2015)

スライド 11

問いの背景 その1 目標設定に関する課題

- ★教科固有の能力構造の検討・精緻化は
 進んでいるとはいえ、
 目に見えづらい、言語化しづらい
 高次の能力の内実を吟味し
 単元の目標として具体化するまでに
 各教師は至っていないことが多い。(自分も含めて)

スライド 12

問いの背景 その1 目標設定に関する課題

しかも、どこかから借りてきたような目標が横行
 (自分も含めての反省)

今、目の前にいる生徒たちの状況に基づき、
 (もちろん指導要領や社会の情勢もふまえ)
 生徒の具体的な姿として描かれた目標を設定
 して、単元・授業を構想していきたい。

スライド 13

改善のポイント 1 教師による目標吟味の徹底

- 借り物の目標 ……学習指導要領や指導書等からの引き写しが横行
(自分も反省しますが) 教師自身の願いに基づく、主体的な目標設定を
- 今目の前にいる生徒たちの状況をふまえた目標吟味を
「この生徒達がこのような姿になって欲しい」
「このようにつまずきを克服して欲しい」
といった具体的な姿として、目標の設定を
「目の前の生徒にどんな力を培いたいのか」という目標吟味の徹底を！！

スライド 14

問いの背景 その2 目標と学習活動を一体化するという課題

どうやってそんな力をつけるの？

- 知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や、主体的に学びに向かう態度を培うことが大事、ってよく言うけど、それって、
どんな教材で、どんな方法で、つけるの??

スライド 15

問いの背景 その2 目標と学習活動を一体化するという課題

どうやって力をつけるのか、に関する3つのポイント

- ★生徒のものの見方・考え方を揺さぶる教材の選定
書籍はもちろん、新聞、ネットからも、採用。自分が書くことも。
- ★学習課題・発問の選定
問いと答えの間が長い問い (by石井英真氏)、シンプルな発問、
- ★学習活動の組織化
ぐー——っ！と考えて、わっ！て話す。ALか否かではない。

スライド 16

問いの背景 その3 評価に関する課題

力がついたかどうかをどうやって判断するの？

- 三観点から評価することが大事ってよく言うけど、たとえば思考力の場合で言うと、
どういことが、どんなふうに行っていたら、思考力がついたって言うの？

スライド 17

問いの背景 その3 評価に関する課題

形成的にも、総括的にも評価する

生徒の頭の中を毎日・丁寧に見とり、指導の改善に生かす(形成的評価)



- 生徒は毎朝ノートに「オレシカ」の真似物かごへ提出しに来ます。
- 授業はノートの内容を見ながら、その日の授業内容を振り返ります。
- 気になる状況があれば、男が全部を説明させます。

授業中は、課題が終わった人からやります……

ちょっと列ができてしまいました……が、一人ひとりの思考プロセスを確認します。

スライド 18

問いの背景 その3 評価に関する課題

「生徒の状況の把握」こそが評価の重要な機能

生徒は今、

- 何を理解し、何を理解していないのか？
- どんなところにつまずいているか？

ノート ワークシート 生徒との問答
レポート 定期考査 自己評価
等を使って生徒の状況を把握する

スライド 19

知識・技能&思考・判断・表現の観点で
特に意識せず————と見続けたこと

★説得力のある証拠や論拠を用いているか。

★自分の意見に対する反論を予想した上で、
主張を伝えているか。

スライド 20

「問い」の設定	探究の過程と導かれた結論	ふりかえり
その「問い」が、伝統・文化に関する問題を核心とする重要な「問い」であることを自覚した上で、その「問い」に決めた理由や、決定に至った過程をわかりやすく、論理的に述べている。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、整理し、可能性のある複数の仮説について検討した上で結論を作り上げている。	意見文作成を通して学び、考えたことだけでなく、ノートに記されている。それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及してふりかえりを書いている。特に、学習過程において自らが視点を転換したり視野を広げたりしてきたこと、自分の思考を何度も問いなおしていること、そして自覚的に探究を進めてきたことが具体的にわかる記述になっている。
その「問い」が、伝統・文化に関する重要な「問い」であることを自覚した上で、その「問い」に決めた理由や、決定に至った過程がわかりやすく、論理的に述べている。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、整理し、可能性のある複数の仮説について検討した上で結論を作り上げている。	意見文作成を通して学び、考えたことだけでなく、ノートに記されている。それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して具体的な「ふりかえり」を書いている。
その「問い」が、伝統・文化に関する重要な「問い」であることを自覚しているが、その「問い」に決めた理由や、決定に至った過程がわかりやすく、論理的に述べている。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、整理し、可能性のある複数の仮説について検討した上で結論を作り上げている。	意見文作成を通して学び、考えたことだけでなく、ノートに記されている。それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して具体的な「ふりかえり」を書いているが、意見文に関する記述が少ない。
その「問い」が、伝統・文化に関する重要な「問い」であることを自覚しているが、様々な情報を参照し、答えを出せる、または、参照し出すことができないような「問い」である。	他者の意見も参考にしながら、様々な情報を拾い上げ、整理し、可能性のある複数の仮説について検討した上で結論を作り上げている。	考えたことだけでなく、ノートに記されている。それまでの他者や自分の考えを引用・参照・言及して具体的な「ふりかえり」を書いているが、全体
その「問い」は、伝統・文化に関する重要な「問い」とは認められない。	「問い」の解決に関連する情報をほとんど用いずに結論を作成している。	「ふりかえり」を書こうとしているが、全体的に量が少ない。

形成的評価のルーブリックを参照しつつ、主体的に学習に取り組む態度を確認していく

スライド 21

問いの背景 その3 評価に関する課題

形成的にも、総括的にも評価する

ならば試験は??

どのように、総括的に評価する? 評定へはどう??

スライド 22

問いの背景 その3 評価に関する課題

定期考査は、生徒の頭の中を把握するための大チャンス!!

若狭高校国語科チームは、基本的に、既習教材を素材とした考査問題を作らない。初見の問題で、つけたかった力が育っているか、見ようとしています。

★考査をしなかったことも、つけたかった力を測るのに、最適な評価方法を選ぶ

スライド 23

でも、今回は、少し失敗した……。

反省点は、のちほど……

スライド 24

私たち全ての教員に、問われている問い

- 我々は、「どんな力」を培いたいと考え授業を行うの?
- どのような教材・活動で、その力を培うの?
- 力が培えたかどうかを、どのように評価するの?

スライド 25

教師としての熱い願い

生徒自身が問いを立てた上で、
試行錯誤しつつ、
問いへの理解を深めていく、
自律的な学習者を育てたい

スライド 26

目の前の生徒の状況から、目標を紡ぎ出す
意見文を書く際に、「なぜそう考えるのか」についての言及が弱い。
言及していても、論拠に乏しく、主観的にしか述べられないことが多い。
論説的な文章を読み取る際には、
文章構成や、主張と論拠の関係を的確に読み取ること
を苦手とする生徒が多い。
これは筆者の頭の働かせ方に意識が及んでいないせいでは？
書く能力を育む単元を組織し、
生徒に意見文を書かせる活動を仕組み、書き手への意識化を図る。
途中に大量の文章を読み、さらには、スピーチする活動も組み入れる。
あくまでも、書く能力を育む単元として組織するが、
副次的に、読む力、話す力も総合的に培えるのではないかと仮定

スライド 27

「現代の国語」で培うべき力とは？ 科目の目標は？

論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、
他者との関わりの中で伝え合う力を高め、
自らのものの方・感じ方・考え方を見つめ直したり深めたりする。
つまり、

- 「論理的に考える力」
- 「共感したり想像する力」
- 「伝え合う力」
- 「自分を見つめ直したり深めたりする力」



スライド 28

本単元の指導案には書いていないポイント

- 書くためには読まねばならない (青木幹勇『第三の書く—読むために書く、書くために読む』)
- 深く考えるに値する題材・課題で書く(「学校のトイレは和式が良いか洋式が良いか」では・・・)
- 無理矢理感のある「パフォーマンス課題もどき」(あなたは新聞記者です・・・)にしない・・・。

主体性と
「書く力」を育む単元
だからこそ、教材が大事。
生徒が学ぶ意義や
有効性(レリバンス)を感じる
教材・課題・発問を組織する



スライド 29

思考しコミュニケーションする活動が自ずと生じる課題設定や場作りを
石井英真『今求められる学力と学びとは』113pより

ダブルやシュートがうまいからと言って、良いプレーが出来るわけではない。
知識を活用したり、創造する力は、そうした一般的な能力があると仮定し、
その形式を訓練することによって育たない。
それは、学習者の実力が試される、
思考しコミュニケーションする必然性のある文脈において
共同的で深い学習に取り組む中でこそ育てられる。
ある分野の内容知識や思考力、さらには、その分野の本質を追究しようとする
態度は、一体のものとして育っていく。

スライド 30

そして、ちょっと小さい声でお伝えし、議論したいこと

「知識・技能」と、「思考力・判断力・表現力」と「主体的に学びに向かう態度」は
三点セットで育む。
「知識・技能 (たとえば、主張と論拠の関係) だけ」とか、
「思考力・判断力・表現力 (論理的に考える力) だけ」とかを、
個別にドリルしてもだめなんじゃないの？ (特に、「現代の国語」は、そうなりがち。)
だって、メタ認知とか批判的精神などの高次の能力は育たない・・・。
「現代の国語」を、単なる「方法知」の教科にしないことが重要

スライド 31

そして、最もお伝えし、議論したいこと

目標と指導と評価を一貫させたいですね！
ただし、目標を個別化・細分化してドリル化するようなやり方ではだめかなあ。
「主体的に学びに向かう態度」を育むことまで、しっかりと見据えた上で、
単元を貫く学習課題を作るというのでは？。
もちろん、学習過程では、「意見文の型」や「論証の方法」などの、「知識・技能」
論理的に考える力 につながる を組織する。
でも、それだけではだめ。そして、そういう課題に耐えられる教材が必要。
だから、教材発掘が大事。